

道徳を体育や生活指導と関連付け 「ルールのしゅくさ化」を目指す

東京都豊島区立さくら小学校

新課程では、道徳の時間を要として道徳教育を教育活動全体で取り組むことが明記された。豊島区立さくら小学校では、体育科や生活指導と関連付けながら、道徳的な行為を習慣化させることによって、心が豊かなものとなるように活動を工夫している。

未来を生きる子どもたちに 付けたい力

自己を確立して、社会的自立を図れる力

健全な自尊感情の下、高い志を持って、
凜として輝ける力

異質であることを互いに認め合った上で
助け合える力

新課程を踏まえ 大切にしている取り組み

- ◎道徳を柱に、体育科と生活指導に関連付けた道徳教育を展開
- ◎体育の授業では、ゲーム学習を中心にルールの順守や集団参加の道徳性を育む
- ◎生活指導では、道徳の理念だけでなく、形としての実践を重視。児童の発案により生活のルールを定める

◎背景

豊かな心を育むことが 学力を高めるための基盤

豊島区立さくら小学校の校区には、電車で数駅しか離れていない繁華街とは対照的に、静かな住宅街が広がる。大手企業の社宅などもあり、私立中学校への進学者は学年の約3割を占める。関口純一校長は子どもたちの様子を次のように語る。

「本校の児童の良い面は、基本的な生活習慣や学習習慣が身に付いていることです。一方、人とかかわる体験が不足しがちなところがあります。家庭での生活習慣に加え、学校

S c h o o l D a t a

◎豊島区立千川小学校と豊島区立大成小学校が統合して2002年に開校。06年度から2年間は国語教育、08年度からは文部科学省や豊島区教育委員会の研究指定を受けて道徳教育を研究している。



校長 関口純一先生

児童数 344人 学級数 12学級

所在地 〒171-0051 東京都豊島区長崎6-16-1

TEL 03-3956-8164

URL http://www.toshima.ne.jp/~sakura_e/

公開研究会 未定

新課程2年目の学校づくり——未来を生きる力を育むために

という集団生活におけるルールも身に付けさせないといけません。また、保護者の教育への関心は高く、子どもに対する期待が大きいことから、少しストレスを感じている子どももいます。本校としては、子どもが人とかわり合いながら自尊感情を高めていくような教育活動を展開したいと考えています」

関口校長は、学校経営の基本方針に「自立」「共生」「愛」を掲げている。自分が自分であることに誇りを持ち、違いを認め合い、共に支え合って生きることの大切さを育んでいきたいとの考えからだ。こうした方針の下、同校では2008年度から4年間にわたり、道徳教育を校内研究のテーマに掲げてきた。

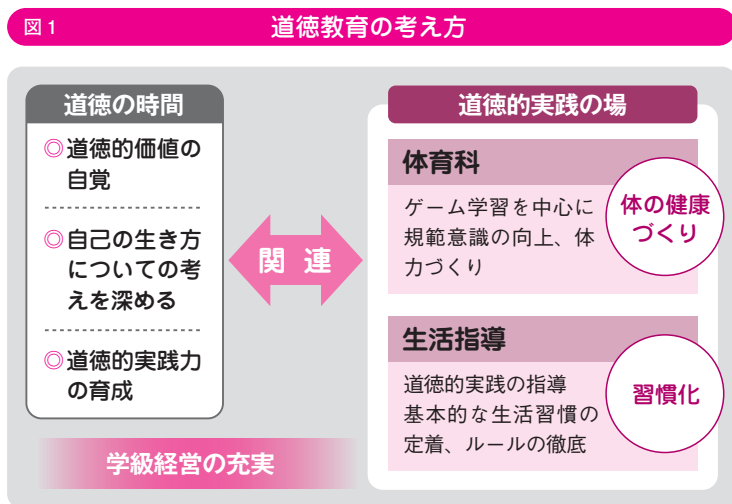
「学校教育で最も大切なのは学力を高めることだと、私は考えています。そのためには、基盤となる生活習慣や学習習慣、そして豊かな心が必要です。集団で生活し、学習する場として、人間関係がぎくしゃくしては学習に集中できません。道徳教育で心を育み、学習にふさわしい環境を整え、学力もおのずと高まると考え、取り組みを進めています」(関口校長)

●取り組み内容 道徳的な行為を子どもが 実践できる形にして習慣化

同校の道徳教育の特徴は、道徳の授業は子どもが道徳的な考え方を身に付ける場、体育

の授業や生活指導は道徳的な行為を実践する場と位置付けて、活動を組み立てている点にある(図1)。

「『道徳教育』イコール『道徳の時間』という意識の教師は多いとは思いますが、学習指導要領に示されているように、道徳の授業を軸として他の教科・領域と関連させて全教育活動で心を育んでいくというのが、本来の道徳教育です。ただし、いきなり全ての教科と関連付けて指導するのは難しいので、本校ではまず体育科と生活指導に絞って、教育活動を進めています」(関口校長)



*同校の資料を基に編集部で作成



豊島区立さくら小学校校長
関口純一 せきぐち・じゅんいち
「教師として大事にしているのは、子どもとしっかり向き合って逃げないこと。校長としてブレないこと」

体育の授業では、ゲーム形式の学習を中心に、規範意識や自尊感情が高まるような工夫をしている。例えば、ドッチボールのコートの形やルールを子ども同士で話し合っただけで決める。友だちや自分の良かったプレーをカードにまとめて見せ合ったりしている。

「体育の授業目的の達成度を高めるために道徳教育を取り入れる、という考え方で授業を構成するようにしています。道徳教育を強調するあまりに体力が付かなかつたら本末転倒です」(関口校長)

生活指導では、「さくらのルール」と「さくらしぐさ」から成るルールブックを作成し、全児童・全家庭に配布した(P.16 図2)。

「『道徳教育が大切』ということに異を唱える保護者はほとんどいませんが、心は目に見えませんが、概念的に説明しただけでは子どもも保護者も実感が湧きません。道徳的行為として表面に現れることにも取り組むべきだと考えました」

ルールブックの特徴は、教師だけでなく、子どもの声を反映させている点だ。例えば、あいさつをする時には校帽を脱ぐというルールがある。これは、あいさつは帽子を脱いで

*プロフィールは取材時(2012年3月)のものです

図2 「さくらのルール」と「さくらしぐさ」

さくらのルール

- 1 ガードレールや白線の内側を歩こう。
- 2 歩道橋を渡ろう。
- 3 踏切を渡るときの約束を守ろう。
- 4 登校時刻、下校時刻を守ろう。
- 5 通学路を守ろう。
- 6 登校途中、忘れ物に気付いてももどらない。

- 47 給食は、残さず食べよう。
- 48 感謝して「いただきます」「ごちそうさま」を言おう。
- 49 係や当番は進んでしよう。
- 50 連絡帳や配布された手紙は、その日のうちに家の人に見せよう。

さくらしぐさ

- 1 なかよししぐさ
 - 泣いている子がいたら、なぐさめてあげる。
 - 1人で寂しく遊んでいる子がいたら、自分から「あそぼ」とさそう。
- 2 てつだいしぐさ
 - けがをしている人などの、給食を運んであげる。
- 3 図書室本整理しぐさ
 - 読んだ本を次の人が気持ちよく使えるように、元にもどす。

- 9 ドアしぐさ
 - 後ろの人のためにドアをあけてあげる。
- 10 あいさつしぐさ
 - 廊下でお客さんに会ったときは足をとめて会釈をする。

「さくらのルール」は全部で50。みんなが楽しく仲良く安心して学校生活を送るためのルールとして、子どもたちの声を生かしてつくった。「さくらしぐさ」は人への優しい思いやりが伝わるしぐさとして、子どもからの応募を基につくった

* 同校の資料を基に編集部で作成

常に新課程の趣旨に 立ち返ることが大事

関口校長は、12年の年明けに、次年度の教育課程編成の校長方針を教職員に提示した。12年度は創立10周年を迎えるため、それを軸にして行事などを組み立てていくことを第一の柱に掲げ、更に11年度の施策を継続・発展させていく方針だ。

「新課程移行期間の始まった09年度から、新課程の趣旨をどう教育活動に反映させていくのかを模索してきました。全面实施を待つより先に真剣に考えていかないと、具体的な改善には結び付かないからです。新課程2年目となりますが、まだ十分に趣旨を踏まえていない部分があるはず。小学校教育の節目であることを常に意識して、新課程の趣旨に立ち返る必要があります」（関口校長）

同校は、授業時数の増加については、2つの方策で対応した。1つはモジュール方式の採用だ。週3回、各15分間のモジュールを取り入れ、合計45分の1コマ分を捻出。この1コマでは国語の漢字練習や算数の計算問題といった基礎・基本の繰り返し学習を行っている。2つめは土曜日の活用だ。豊島区は11年度から「としま土曜公開授業」を始めた。これは、原則として月1回、土曜日に半日授業を行うというもので、これらによって生じた2コマ分の時間的余裕を、週1コマの補習の

するのが礼儀だと知っていた子どもが自発的に始めたところ、子どもたちの間で広がり、ルール化したのだ。

「さくらしぐさ」も子どもたちの意見で出上来上がった。きっかけは、関口校長が全校朝会で「江戸しぐさ」について話したことにある。「雨の日に人とすれ違う時、相手が濡れないように傘を外側にかしげる」など、江戸時代の町民のマナーとして伝わっている江戸しぐさについて話し、「さくら小でも優しさや思いやりが伝わるしぐさはないかな？」と関口校長が投げ掛けたところ、子どもたちから次々とアイデアが出てきた。

このようにしてつくられたルールやしぐさを意識的に実行に移せるように、月や週で重点項目を設定し、取り組んでいる。

目に見える道徳的行為に対して、学校を訪れた人々から「さくら小学校の子どもたちは立派なあいさつが出来る」などと褒められることが少なくない。関口校長は、全校朝会でそうした話を披露するように心掛けていると話す。

「まずはルールを守る行為という形から入り、それが次第にしぐさとして自然に身に付いていくというのが願いです。これを『ルールのしぐさ化』と私は呼んでいます。子どもたちのこうした行為が、地域の方々に理解され、学校の評判が高くなり、子どもたちに還元されていく。その結果、子どもたちの自尊心が高まっていく。ルールブックによって、こうした良い循環が生まれています」

新課程2年目の学校づくり——未来を生きる力を育むために

時間と、教師の会議の時間に当てている。12年度は、これらの枠組みを継続しつつも、モジュールでの学習内容を見直すなどして、指導内容の充実を図っていく。

このように授業時数を捻出したため、行事は削減せずに内容を工夫している。

「学校行事は教科学習で積み上げてきた成果を発表する機会という原点に立ち返り、学芸会などでの派手な演出は控えるようにし、行事のための練習も最低限に抑えるようにしました」（関口校長）

道徳教育については、4年間にわたり研究を進めてきたため、新課程で新設された「道徳教育推進教師」を中心とした組織的・計画的な体制が整っている。これを土台に道徳教育を更に進化させ、12年度から人権教育の視点に立って進める方針を掲げた。

「人権教育を通じて、子どもの自尊感情を更に高め、教師の人権感覚を振り返るきっかけが出来ると考えています。教師の目に見えないところで悲しんでいる子どもがいるかもしれません。もう一度、自分の言動を見直し、修正すべき点があれば改善されることを期待しています」（関口校長）

●学校経営の工夫

校長が理念だけでなく具体的な方針を示す

関口校長は、学校内のどのような活動につ

いてでも、先生方の意見を大切にしつつ、校長として明確に方針を示すようにしてきたと話す。

「校長が方針を明確に示さなければ、先生方も目指すべきものが見えてきません。子どもたちや教師の様子を見取り、本校が目指すべき目標を示し、それをどのような場面でもブレないようにしてきました。もちろん、先生方は学級の指導で手一杯ですから、校長だけが旗を振ったからといって、それでうまくいくものではありません。示した理念を、主幹教諭や研究主任が多くの先生を巻き込みながら推進していってくれるからこそ具現化できるのです」（関口校長）

関口校長の専門分野は道徳教育である。新学習指導要領で重点に挙げられており、更に、自身が具体的な方針を示すことが出来るので、道徳教育を校内研究のテーマに設定したと説明する。

「抽象的な理念を示すだけでは、先生方ほどのように指導を進めればよいのか分かりません。新学習指導要領解説の道徳編で『校長の方針の明確化』と明記されているように、校長が理念だけでなく具体的な方策まで示すことが大事だと考えています。自分の得意分野を生かしつつ、子どもたちが大好きといえる学校を、新課程2年目を以降もつくっていきたいと思います」（関口校長）

学校をつくり、動かすチームワーク

校長の役割

先生方が研究の成果を実感できないと、やらされている感や多忙感が高まってしまいます。先生方は真面目ですから、研究よりむしろ子どもたちと向き合っていたいと考えやすいものです。ですから、研究を通して、「子どもたちが成長した」「保護者や地域から評価された」といった喜びを実感してもらえるように、発表の機会を設けたり、子どもたちや保護者からの評価をきちんと先生方に伝えたりすることも校長の役目だと考えています。

校長 関口純一先生

ミドルリーダーの役割

先生方が前向きに研究に取り組めるように、常に見通しを持って進めるようにしています。そのため、年間の研究計画を立てる際も、会議ごとに話し合う内容や準備すべきことを示し、会議の時間を最大限に生かせるように工夫しました。課題が明らかになった時は、「このような考え方はどうか」と具体的に提案し、参加者の共通理解を促すようにしています。先生方が団結して教育活動に当たれるよう支援するのが私の役割だと思っています。

研究推進委員長 石川賢治先生